（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	Woody２放課後等デイサービス			
○保護者評価実施期間	令和７年　１月２０日	～	令和７年　２月　８日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	１５人	（回答者数）	１５人
○従業者評価実施期間	令和７年　１月　２０日	～	令和７年　２月　２０日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6名(兼務職員１名・パート職員１名)	（回答者数）	６名(兼務職員１名・パート職員１名)
○事業者向け自己評価表作成日	令和７年　２月　２5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異業種を経てきたスタッフが在籍しているため、様々な視点からのアセスメント・サポートが可能。	様々な職務経歴（病院勤務での理学療法士・大学教員・演奏家・看護師・訪問ヘルパー・調理師・劇団員等）を有する保育士・児童支援員等職員が勤務していることで、多岐にわたり児童の成長支援に貢献できる。	児童の特性を考慮し、身体の使い方、地域社会に出ていくためのソーシャルスキル、など専門職員が中心となりすすめていき、さらに外部講師等からの新しい情報取得のため研修も同時に行い、支援のアップデートを行っていく。
2	外部からの団体などを招待し、他事業所を巻き込みイベントとして芸術文化に触れる機会を持っている。	デジタルソースでは伝わりきらない演劇や音楽等の芸術文化を児童たちが直接体感できる臨場感あふれる場を事業所自らが企画し運営して提供できる。	今後も様々な芸術文化に触れ、家庭では経験できないこと等を計画、実施していく。公民館等活用し近隣住民の参加も宣伝し、地域貢献にも努めていきたい。
3	年代、様々な特性を持った児童、又は保護者のニーズ等を考慮した異なる支援目標を持つ事業所を法人は複数運営している。各事業所における小学校１年生から高校３年生までの年代の異なる児童が同時に関わるイベントを行うことで日頃とは違う雰囲気の中、協力し成し遂げる活動を行っている。	児童が学校や地域社会との密な関わりを持つ準備段階として、法人内における各事業所間の連携促進（合同イベント活動）をすることにより、児童が様々な特性を持った年代の異なる仲間とコミュニケーションをとる機会が増えることで社会性やコミュニケーション能力向上が期待される。	毎年恒例行事と今年度はピクニック等も追加し計画している。年上の役割や、年上に対しての話し方等の学びに繋げていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の急病等での人手不足により適切なサポートが行き届かない時が挙げられる。このような急病等はやむを得ない事情だが、様々な形態、角度から職員の雇用を検討し、突発的に起こり得る人手不足に対応できる人員体制の強化を図らなければならない。	パート従業員、兼務職員又常勤職員も含めて日々の療育に従事しているが、仕事の性質上、疲弊、ストレスが積み重なることがある。職員個人の意見を十分に聞き、少しでもストレス軽減の一助になるような取り組みを行う必要がある。	パートやアルバイトなどの採用も多角的、多面的に検討し、利用者や従業者に疲弊、ストレスに繋がらないような配置の方法を検討する。また従業員にはリフレッシュのため有給などの利用も積極的にすすめる。また、様々な声を聴く意見箱の設置も考えている。
2	児童が興味を持つ様々な活動が提供されていな時がある。各児童の特性に合わせた活動の充実が必要であり、それは活動に興味を持たせる方法の検討が課題として挙げられる。	何を療育の目的とした活動にするのかを考慮しながら活動を作成しているが、計画通りに進まず活動が不十分な場合や児童が興味を示さなかった場合等における、振り返りミーティングの重要性がある。	活動の目的、何を課題とするかなどを考える上で、既に行った活動のトライアンドエラーもチームで考えていく。ミーティングにより試行錯誤した多数の視点からの活動を取り入れていく。
3	ペアレントトレーニングや家族が参加できる研修が不足している。	スタッフによるペアレントトレーニング研修が実施できていないため、スタッフ自らの受講又は講師を招いての研修等が検討課題となっている。	職員がペアレントトレーニングの講習や研修を受講することで、その内容を子育てに悩みを抱えている保護者へ還元することで、その悩みを抱えている保護者の児童の行動変容を目的とする養育スキルを保護者が獲得する機会を提供すること。